

バイク窃盗をした男子生徒の事例

1. 主訴 バイク窃盗

2. 対象 高等学校1年 男子

3. 問題の概要

- 小学3年から学習成績が低下し、両親にテストの結果を隠すようになった。
- 中学1年ごろから何事につけ両親に反抗し、夜間外出や喫煙をするようになった。
- 高校では、入学当初から学習意欲が低く、遅刻、早退、欠席が多く、登校しても、頭痛や腹痛を理由に、保健室で過ごすことがある。また帰宅後は、中学からの仲間と夜遅くまで遊び、帰宅は深夜に及ぶことが多い。さらに、バイク窃盗、シンナー吸引で警察に補導された。

4. 資料

— 生物的次元 —

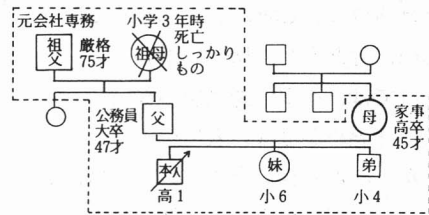
- 身体的発達・特徴
小柄でふっくらしている。脳波の異常なし。
(高校1年時検査)
- 睡眠
小学3年ごろから現在まで入眠困難な状態が続いており、時折、金しぼりになる。
- 身体症状
小学3年ごろから、アイチック、中学から現在まで、肩すくみ(肩のチック)が続いており緊張場面では特に顕著にあらわれる。
また、中学3年ごろから、登校時に時々、頭痛や腹痛を訴え現在まで続いている。医師からは精神的なものが原因となっていると診断された。

— 心理的次元 —

- 知的側面
知能偏差値は51である。学習成績は、小学校低学年までは普通であったが、中学年から低下し、中学校では下位になった。
- 対人関係
幼児期から一人遊びが多かった。中学1年ごろからツッパリグループに所属し、現在もその交友関係が続いている。
- 性格・情緒
小学校低学年までは素直であったが、中学年ごろから、強制的に勉強させられたことから、口には出さなかったが、両親に憎しみの感情を抱いていた。
中学時代は、家庭でのけ者にされている感じを持っていた。
性格的には、神経質、自己中心的、攻撃性、軽卒さがみられる。

— 社会的次元 —

● 家族構成



● 家族関係

